

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	構造物のレジリエンス評価小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	
設置期間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>想定外の外乱に対してもよりレジリエントで高い安全性を確保する構造設計について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度：構造物のレジリエンスの定量評価について調査を行う ・ 2 年度：構造物のレジリエンスの定量評価について資料整理を行う ・ 3 年度：構造物のレジリエンスの定量評価について取りまとめを行う ・ 4 年度：大会 PD, シンポジウム等において調査結果を公表 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：竹脇 出 (京都大学) 幹事：高田豊文 (滋賀県立大学), 山川 誠 (東京電機大学) 委員：浅岡泰彦 (大林組), 朝川 剛 (日建設計), 磯部大吾郎 (筑波大学), 伊藤拓海 (東京理科大学), 寒野善博 (東京工業大学), 曾我部博之 (愛知工業大学), 趙衍剛 (神奈川大学), 福田隆介 (鹿島建設), 中村尚弘 (竹中工務店)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s37/index.htm

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む) メールによる審議多数回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. レジリエンスの定義および定量化について詳細に検討した。さらに、レジリエンス研究を行っている米国の研究者との意見交換も行った。 2. 種々の資料を集めレジリエンスに関する研究の現状把握を行った。また、2016 年度大会 PD 開催のための企画を行った。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. 冗長性・ロバスト性・レジリエンスについての用語の取り纏めを行いたい。また、2016 年度大会 PD では、4 年間の活動報告を行いたい。